



unicef  for every child

(公財)日本ユニセフ協会協定地域組織 / 岐阜県ユニセフ協会

〒509-0197 岐阜県各務原市鷺沼各務原町1-4-1
生活協同組合コープぎふ1階
☎ 058-379-1781 Fax 058-379-1782
E-mail: gifuken@unicef-gifu.jp
https://unicef-gifu.jp/



ユニセフ通信

2021年11月 No.20

今
世界では
何が起きているのか。

アフガニスタン

この数か月の紛争と治安の悪化により、アフガニスタンの危機に最も責任のない子どもたちが最も重い代償を払っています。少なくともの100万人の子どもたちが重度の急性栄養不良に陥り、治療をうけなければ命を落とす可能性があります。おとなの同伴者がいない子どもたちや、家族と離ればなれになった子どもたちの数は増え続けています。ユニセフは、長きにわたりアフガニスタンの現場で活動し、重要な人道支援や開発支援を幅広く提供してきましたし、この危機の中でも現地にとどまり子どもたちや家族への支援を続けています。国際社会の支援がなければ、不可欠なサービスは停止し、国はさらに混乱に陥ってしまいます。



©UNICEF/UN0512092/Bidel

ヘラートの国内避難民キャンプにあるユニセフの子どもやさいい空間でレクリエーションに参加し心理社会支援を受ける子どもたち(アフガニスタン/2021年9月1日撮影)

ハイチ

ラテンアメリカ・カリブ海の島国ハイチでは今年8月14日マグネチュード7.2の地震が南西部の町を襲い、8月16日には熱帯低気圧「グレース」による豪雨が、さらに被害を増大させました。現在も26万人の子どもを含む65万人の人々が支援を必要としています。最も被害の大きかった地域では82か所の保健施設が損傷・損壊したと推定され保健システムはニーズに対応できません。負傷者は傷口からの感染症や破傷風など健康リスクが高まっています。ハイチの子どもたちは地震発生前から栄養不良率、ギャングなどによる暴力からの避難、新型コロナウイルス感染症による二次的影響に苦しんできました。ハイチは近年で最も複雑な人道危機に直面しています。



©UNICEF/UN0511432/Crickxl

レイカ東部にある、地震の被害を受けた学校の隣のベンチに座る女の子たち(ハイチ/2021年8月30日撮影)

シリア

中東のシリアでは紛争が始してから10年がたちました。この10年間で600万人ちかい子どもが生まれ、紛争の最中、平和や故郷を知らずに育っています。シリア国内の子ども半数は学校へ通えず、昨年だけでも精神的苦痛を抱える子どもの数は倍増したと報告されています。新型コロナウイルス感染症によって人々の生活はさらに悪化し、シリア国内では80%近くが貧困に陥っています。またシリア周辺国には、今も250万人のシリア人の子どもが難民として暮らしています。



©UNICEF/UN0405701/Akacha

北西部のKafrLosin難民キャンプで、給水トラックから水を汲む少女(シリア/2021年1月撮影)

同じ空の下で こんなにも多くの子どもたちが危機にさらされています

◆ユニセフの緊急支援募金は

各地の自然災害、難民・移民危機・食料危機などの事態に陥った国や地域に届く緊急の支援です。

お寄せいただいた募金は速やかにユニセフ本部を通じて現地事務所に送り、子どもたちの支援にあてます。

現在は、**新型コロナウイルス 自然災害 シリア難民 ロヒンギャ難民 アフリカ栄養危機 人道危機**の6つの緊急募金をお願いしています。振込用紙備考欄に募金の目的を記入してお振込みください。

例えば「シリア」「新型コロナ」のように。

◆募金の方法は

ゆうちょ銀行からの振込のほか、クレジット・コンビニエンスストア・ネットバンキング払いもできます。

岐阜県ユニセフ協会でもお預かりしております。

岐阜県ユニセフ協会設立10周年記念事業

6月19日曜日に開催を計画していた記念式典、記念講演会は新型コロナウイルス感染防止の緊急事態宣言が発令され、オンラインでの開催となりました。急な変更にも関わらず、約60名の方々が参加、視聴されました。

「ウガンダで見つけた!私のすすむ道」 講演者 澤井隆彰氏

澤井さんは2015年から2017年の2年間、海外青年協力隊員としてウガンダ・ムベンデ県で活動されました。主な任務は「水の防衛隊」として地域の安全な水の供給と衛生啓発活動でした。しかし、実際現地に赴任すると地域の上水道の普及率は86%と非常に高い水準にありました。なのに、5歳未満の子どもの下痢罹患率は61%もあるということ、そこに「なぜ」という疑問がわきました。そして原因を探るために家庭での子どもたちの生活を朝から晩まで調査します。下痢になるのは汚れた水を飲むことが原因ではなく、そのほかの生活習慣にあることに起因していることがわかってきました。疑問への答えを見つけるために机上の上だけでなく自分の足で調べることの大切さを学びました。



その後、養鶏や、魚を養殖して村人たちの生活改善につながる取り組みを行いました。失敗も繰り返しながら、

村人と一緒に活動するなかで分かったこと

①意義と任務では人は動かない。その活動が楽しければ、達成感があれば続きます。養殖池堀り作業で実感しました。

②人はどんな状況にあっても人としての尊厳がある。誰でもおいしいものをおいしく食べる権利、清潔な服を着る権利があり、そこには人としての誇りがあるんだということを支援する側も知るべきということです。③そして何よりウガンダの青年が言った「自分たちは貧しいが、この国が好き。」という言葉。この言葉が自分のこれからのすすむ道を決定しました。日本の青年が夢と希望をもって生きていくために何ができるかを考えながら現在は若者向けの人材育成コンサルタントとして岐阜市で活動されています。

澤井さんの講演会はYouTubeでご視聴できます。 <https://youtu.be/OkziScBMCFw>

ユニセフ議員連盟会長の野田聖子様からメッセージをいただきました。本来は、式典当日配布冊子に掲載の予定をしておりましたが、この紙面にて紹介させていただきます。
※ユニセフ議員連盟とは、ユニセフの理念や活動に賛同する超党派の国会議員のグループです。

お祝いのメッセージ



岐阜県ユニセフ協会様が設立10周年を迎えられますこと心からお祝いを申し上げます。

ユニセフは「全ての子どもの命と権利を守るため最も支援の届きにくい子どもたちを最優先」に活動をされています。

世界には、紛争や自然災害などで困難な状況にさらされている多くの子どもたちがいます。子供たちは未来への宝であります。その子どもたちに支援が届くよう、私も国会議員として、また、ユニセフ議員連盟の会長としてこれからも皆様のサポーターとして取り組んで参りたいと存じます。終わりに、日頃からユニセフ活動にご尽力頂いておりますすべての関係者の皆様に感謝申し上げます。皆様のご健勝を祈念致しましてお祝いの言葉と致します。

令和3年6月19日 衆議院議員 野田聖子



堀削作業の友人と

第43回ユニセフ ハンド・イン・ハンド募金活動

すべての子どもの権利が実現される世界を～できることからはじめよう～

知ることからはじめよう→学んだこと、考えたことを周りの人とシェアしよう→自分たちにできることで行動しよう



©UNICEF_UNI205862_Karimi

今年のハンド・イン・ハンド募金は、昨年に続き、新型コロナウイルス感染予防のため、不特定多数の方を対象にした一斉街頭募金は中止します。学校、職場、地域でできる募金活動で協力ください。



学校、職場、グループでユニセフ学習会を開きましょう。岐阜県ユニセフ協会から講師派遣をいたします。



2020年12月10日
県立益田清風高校インターアクト部で学習会を開催しました。

具体的な参加方法はこちらから

「ユニセフハンド・イン・ハンド特設ページ」 www.unicef.or.jp/hand/



参加者からの質問に答えて



Q.ウガンダの子どもたちはどんな夢を持っていますか

A.日本人と仲良くなったせいもありますが、日本に興味を持ち、日本に留学したいという夢を語る子が何人かいました。ある女の子は「看護師になるために、日本で医学を学びたい」と言っていました。

Q.澤井さんが関わった事業の養殖業のその後はどうなりましたか。後が続くといいですね。

A.養殖池の掘削が完了する前に、任期が終了したため、その後は、カウンターパートの神父さんや青年団のリーダーに引継ぎました。帰国後に「売れている」という報告が聞くことができましたが、どれほどの収入になっているか、収入の用途は残念ながら不明です。神父さんたちとの会議では「村のために使おう」ということにはなっていました。

Q.中高年の世代もできる国際協力の形のヒントをください。

A.日本にいる外国の方と接するとき「優しくする」と漠然と言われますが、一步踏み込んでその国に興味を持つ、出身国のことを聞いてみるではどうでしょうか。そして日本のことも教えてあげる。文化、宗教の違いを知り、認め合うことでよりお互いが理解できると思います。



ユースグループ



日本好きの友人と

参加者の感想

自分が国際的な活動に関わりたいと考えている中で、心構えとなるような考え方や、実際に教えてください、とても参考になったからです。そのような活動はイメージだけの部分も多かったので、改めて本当にじぶんにながができるのか考えるきっかけを与えてくださいました。

これからのユニセフ活動は、様々な世代、分野で活動されている方と共同できるところは一緒に活動することで相乗的に輪が広がると思います。ユニセフの支援も「自立」を目指していますが、現地の人々をそこまでもっていくためには現地の人を知り、信頼関係を築いて、繰り返すこと、継続すること、並々ならない困難があることがわかりました。

国際協力の 相談窓口

澤井さんが海外で活動してみたい!と思い立って、まずコンタクトを取ったのがJICA(独立行政法人 国際協力機構)です。

新型コロナウイルス感染が終息したら海外で活動してみたい、国際協力について知りたいという方、JICA岐阜デスクをお気軽に訪ねてみてはどうでしょうか。JICAを通じて多くのシニア世代の方も活躍しています。

JICA岐阜県デスクをご活用ください。

JICAと皆さんを結ぶ窓口として、**JICA岐阜デスク**があります。

「国際協力って何だろう」「私にはできることってあるのかな」「仕事を通じて貢献したい」「どうやったら参加できるの?」等、国際協力に関する身近な疑問・相談に対応します。国際協力に関心のある個人、企業、自治体等様々な方からのご相談をお受けしています。是非ご活用ください!



JICA岐阜デスク 国際協力推進員 吉田文(よしだあや)

住所:岐阜市柳ヶ瀬通1丁目12番地 岐阜中日ビル2階 岐阜県国際交流センター内

TEL:058-263-8069 E-mail:jicadpd-desk-gifuken@jica.go.jp

お問い合わせ受付時間:土・日・祝日を除く 9時半~17時半まで

※国際協力推進員は各県に1名配置しております。出張や講演等で事務所を不在にしている場合がございます。お越しの際は必ず、お電話もしくはメールにて事前にご連絡をお願いいたします。



岐阜で活躍するユニセフのなかま紹介 聖マリア女学院中学校・高等学校

幸福とは
受けるのではなく
ささげる心
ほほえむ心
思いやるこころ



聖マリア女学院校訓

聖マリア女学院は19世紀のスペインで「愛がなければ教育は不可能である」という教育理念のもと設立された修道会の流れをくみ、1963年(昭和38年)4月に高等学校を創立、1987年(昭和62年)4月には中学校が併設されました。特に「国際社会貢献できる女性」を育てる聖書を基盤にした情操教育と、国際理解を深める語学教育に力を入れています。

聖マリア女学院中学校・高等学校

【住所】

〒501-2565 岐阜市福富201番地

☎058-229-1102

http://www.maria.ed.jp

福祉活動では中学2年から高校2年までの4年間、年2回福祉施設を訪問し、お年寄りとおふれあったり、車イスでの生活や視覚障がい者の生活体験を行い、他者を思いやる心を育み、人間としての成長を図ります。また、経済的な理由で学校に通うことのできないフィリピンの子どもたちを。各クラスで一人ずつ担当し、手紙で交流しながら継続的に支援する「まごころ募金」活動を行っています。

年末のユニセフハンド・イン・ハンド募金活動には高校1年生全員参加で取り組みます。

カトリック校で学ぶ生徒として、「他者のために何ができるのか」を考え、中1から高3までクリスマス福祉活動を行っています。

高校1年生では、毎年ユニセフのハンド・イン・ハンド募金に参加しています。名鉄岐阜駅前・JR岐阜駅前・高島屋周辺・マーサ21の4カ所を1年生全員が分担し、街頭募金活動を行います。

昨年はコロナの影響で街頭募金はできませんでしたが、校内で募金を呼びかけました。



ハンド・イン・ハンド街頭募金活動
(2019年12月)



多くの生徒が募金活動を行うのは初めてで、「今まで募金をしている人を見ても、ただ通り過ぎるだけだった。でも今回募金活動している人の大変さがわかりました」とか「人の心の温かさに触れ、これからは積極的にボランティア活動をしていきたいです」というような感想が毎年聞かれます。募金活動をやって良かったと思いました。



ユニセフ学習会(2020年11月28日)

昨年は新型コロナウイルスの影響で街頭募金を中止した代わりに、ユニセフ学習会を開催しました。岐阜県ユニセフ協会から講師を招き、世界の子どもたちの現状を知り、ユニセフの募金がどのように子どもたちに届いているのかを学びました。

昨年はコロナの影響で街頭募金はできませんでしたが、校内で募金を呼びかけました。

学んだことを活かし、行内で募金を呼びかけました。

「ユニセフの話聞いて」感想

私は今までユニセフという組織は知っていてテレビのCMでしか活動内容を知らなかったのが、映像を通して詳しく知ることができました。(中略)私が驚いたことは、日本もユニセフの支援を受けていたことです。1949年から1964年までの約15年間支援を受けていたことを知りました。(中略)1年間で約520万人、時間にすると6秒に1人、自分たちが知らないだけでもすごい命がなくなっているという事実を知りました。私が話の中で「誰一人取り残さない」という言葉に心を打たれました。でも、コロナの影響によって誰かが取り残されていることを知りました。そんな世界ではなく、ユニセフの最終目標「支援がなくなること」が実現できる世の中になってほしいです。子どもには世界をよりよくする力があるので、すべての子どもに幸せを与えられる世界になるように、自分ができることを考えて生活していきたいと思いました。(高校1年生)

「ユニセフの話聞いて」感想

地球に生きるすべての人と恵まれない環境で育つ子どもたちのためにSDGsを考えることは不可欠に大切だと再認識しました。一度にすべてを解決するのは難しいですが、段階的に少しずつでもいいので将来的にすべてが解決できるよう、地球に住む誰もが当事者意識を持ち、現状を深刻に受け止める必要があると思います。私たちが当たり前だと思っていることはだれかの当たり前ではありません。生まれた場所が異なるだけで無条件に格差がこんなにも生じてしまうことは人類が取り組み続けなければいけない課題だと強く感じました。私でもできるようなボランティア活動を、今日のお話を受けてすぐしたいと考えるようになりました。家に帰ったらもっとユニセフやSDGsに関するボランティア活動について調べようと思いました。(高校1年生)

お気軽にお立ちよりください!

ユニセフ視聴覚ライブラリーの貸出し ユニセフの各種資料を取り揃えています。

岐阜県ユニセフ協会

〒509-0197 岐阜県各務原市鷺沼各務原町1-4-1

生活協同組合コープぎふ1階

☎058-379-1781 E-mail: gifuken@unicef-gifu.jp

★交通★
JR高山線
各務ヶ原下車(普通のみ停車)西へ徒歩8分
名鉄犬山線
名電各務原駅下車(急行停車)西へ徒歩8分

